

緩和ケアだより

第9版
平成28年6月吉日
公立八鹿病院緩和ケア病棟



山々の緑も雨に打たれて、ますます色濃くなり、夏の匂いを感じる今日このごろです。

緩和ケアだよりの発行も今年で3年目になります。ひきつづき、緩和ケア病棟の様子をお伝えしながら、今年度は院内で活動する「緩和ケアチーム」の活動をご紹介しますと思います。

「緩和ケア病棟」とは、がんの患者さんの身体的つらさ、精神的つらさを和らげる治療やケアをおこなう専門病棟ですが、「緩和ケアチーム」は、緩和医療についての知識と一定の資格を持った医師・看護師、および薬剤師などの多職種がチームを組んで活動しています。外来・一般病棟・老健・在宅など院内全てを対象に、それぞれの部署のスタッフと協働しながら、緩和治療とケアを提供します。

お花見会を終えて

厳しい寒さもようやく和らぎ、穏やかな春の気配を感じる4月19日、11病棟お花見会を行いました。患者様とご家族でホールがいっぱいになるほど、たくさんの方々にご参加いただきました。

ハンドベル演奏には、研修医の岩井先生が飛び入り参加し、一味違った音色の演奏会となり好評でした。そして、壁掛けづくりでは桜の貼り絵をして、その中央にお花見会での皆様の笑顔の写真を貼り、各部屋に飾らせていただきました。

「たくさんのお花に癒されました」「久しぶりに母の笑顔を見ました」などの感想をいただき、皆様お一人お一人の心にたくさんのお花が咲いたことと思います。



お花がいっぱい
届きました



壁掛け作り

緩和ケアチームの活動

緩和ケアチームとは

院内の緩和ケアチームには、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・音楽療法士・管理栄養士・ソーシャルワーカー・クラークが所属しています。患者さんが「苦痛」と感じる症状を緩和するための、様々な薬剤の使用法や副作用対策を始め、症状コントロールに対する意見を出し合い検討していきます。また、精神症状に対してはケアやコミュニケーションの方法などを検討しており、社会的な相談に対してはソーシャルワーカーも介入しています。患者さん、ご家族とコミュニケーションを図りながら、その

思いや意向の確認を行い、担当医や病棟看護師と情報を共有し、患者さん家族の意向に寄り添った治療やケアが提供できるよう支援していきたいと思っています。多種多様な相談内容に応じ、専門職と協働し対応させていただきます。



【身体的な苦痛】 疼痛・呼吸困難・倦怠感・嘔気・嘔吐など

【精神的な苦痛】 眠れない・不安・緊張・落ち込み・せん妄など

【その他の苦痛】 退院後の生活・家族や仕事、経済的な不安など

皆様が気楽に相談していただけますよう、活動を充実していきたいと思っています。

緩和ケアチームの「医師」

緩和ケア医の岸本弘之です。専従医となって3年目に入りました。

以前は消化器・一般外科医として、がんの手術を担当していましたが、転移がん・再発がんと診断され、さまざまな苦痛に悩んでおられる患者さんを目の前にして、「何とか解放してあげることができないか」と、考えて緩和ケアを学び、現在に至っています。

死を避けることは不可能でも、苦痛を軽減することは可能であり、日々緩和ケアチームで真剣に考え、実践しています。

院内のがんの患者さんに、よりよい緩和治療とケアを提供できるようにチームで協働していきたいと思っています。但馬の緩和ケアの質が少しでも向上するように一緒に勉強していきませんか。



～編集後記～

病棟の庭園で、のんびり散歩を楽しまれる患者さんやご家族の姿が時間の流れをとめてくれます。色とりどりの花がやさしく語りかけてくれる癒しの空間です。「今年は畑に何を植えようかな」サツマイモのスイートポテトが昨年大人気でした。美味しい野菜を今年もお届けしたいと思います。

文責：谷口